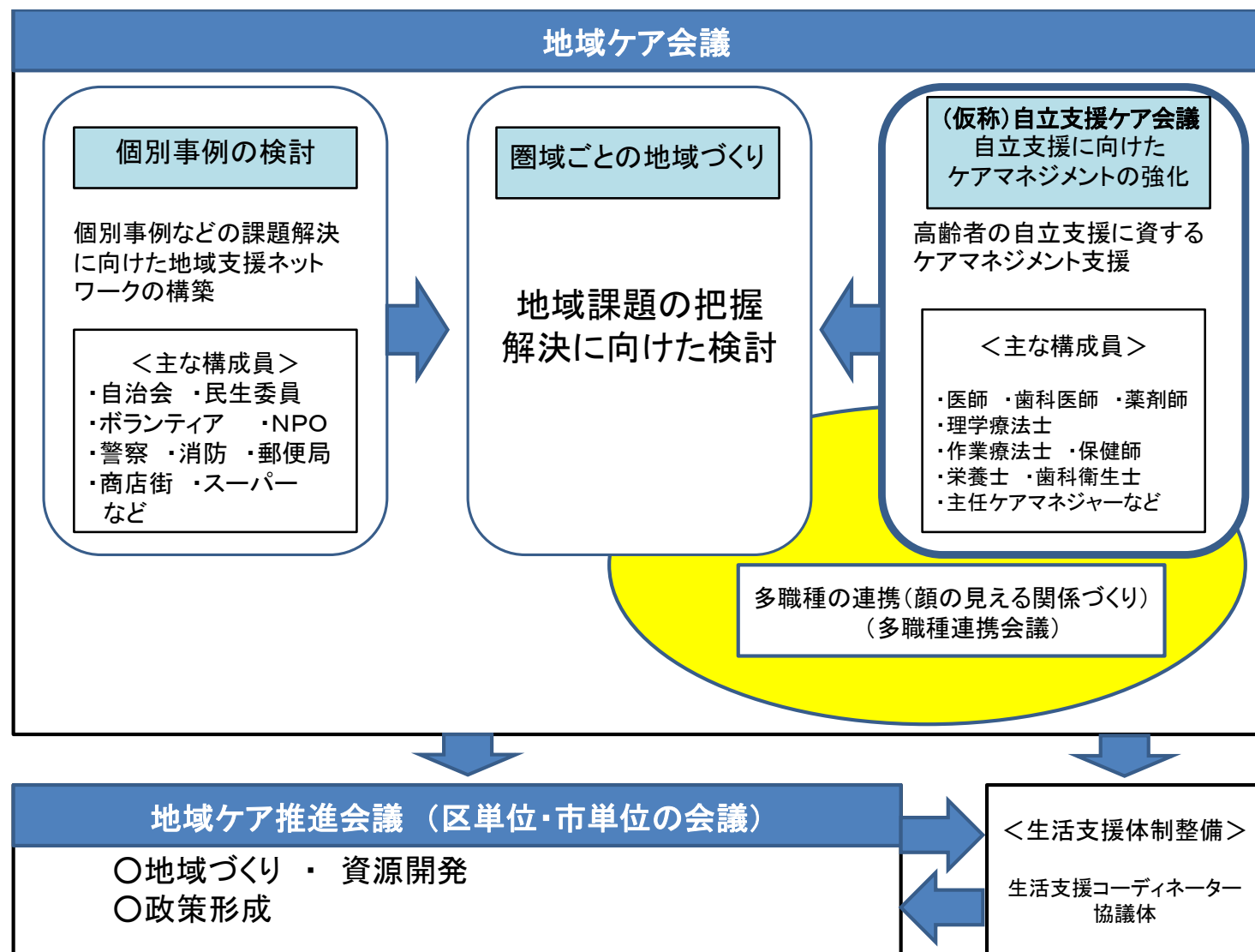


(仮称)自立支援ケア会議の新設について (案)

1 (仮称)自立支援ケア会議のイメージ



2 会議の目的・効果

(1)ケアマネジメントの質の向上

- ①プラン作成者及びサービス事業者が共通した「自立支援」の視点を持ち、個別援助の体制を強化する。
- ②多職種の視点を活かし、アセスメント力と自立支援に資するケアプラン立案スキルの向上を図る。

(2)社会資源の開発等、高齢者を取り巻く環境の整備の推進

会議で挙げた課題について、地域ケア会議等、別の検討の場へ繋げ、地域において必要なサービスや支援の立ち上げ等を行うことにより高齢者を取り巻く環境整備を推進する。

(3)医療・介護等のサービスを提供する多職種の適切な連携に向けた基盤づくり

医療・介護等のサービスを提供する様々な専門職(多職種)が会議に携わり、「自立支援」についての共通認識を図るプロセスとすることで、各々の専門職が適切な役割分担の下、共通のゴールを目指してサービスを提供できる体制の推進を図る。

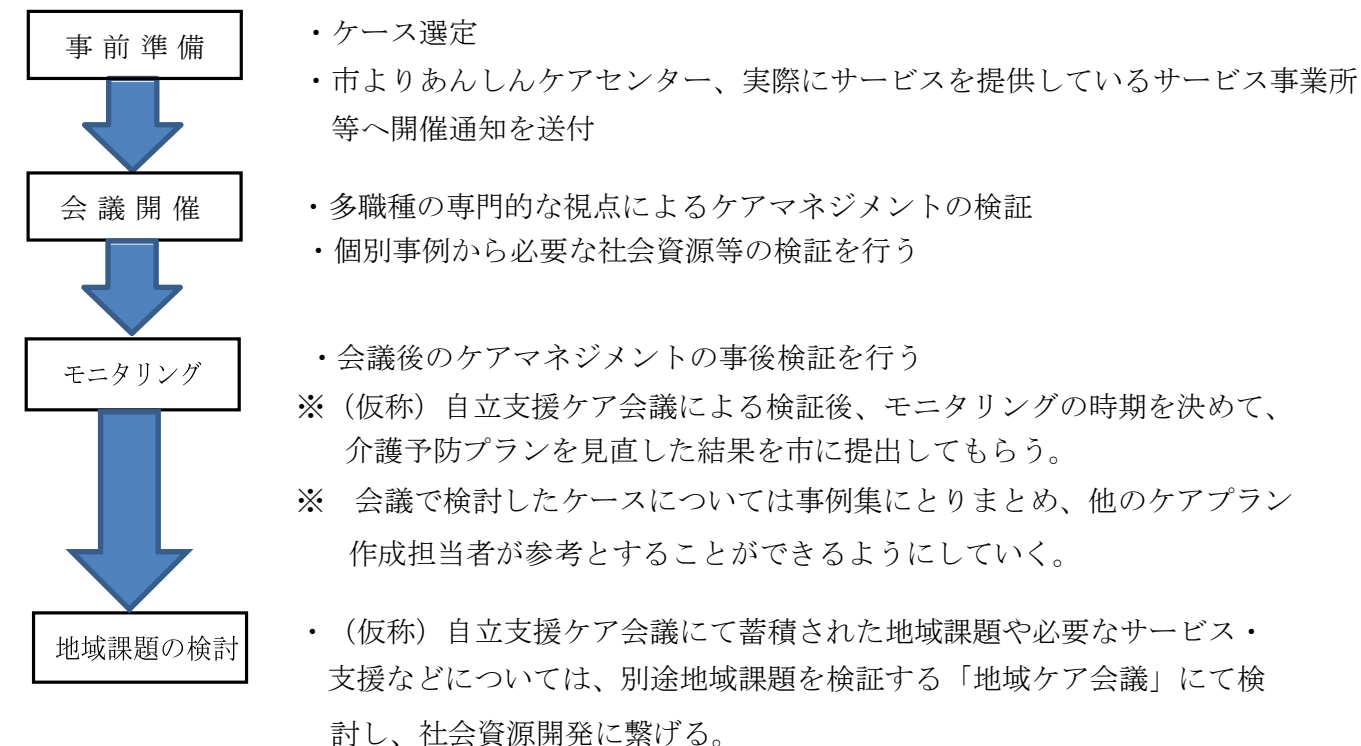
3 29年度 モデル実施について

平成29年度は、新規実施のため、実施体制・会議の流れ・事例の検証方法等について、模擬会議の実施による検証・検討を行い、効果的かつ円滑な実施方法を探る。

なお、第7期介護保険事業計画では、32年までに包括三職種が年1回支援を受けられる体制を目指す。

- 10月下旬～ 行政職員のみによる模擬会議(3回)
- 12月～ 各職能団体の協力を得ながらの模擬会議(3回)
- 3月 モデル実施結果のまとめ

【会議の流れ】



【モデル会議実施体制】

実施主体	千葉市 地域包括ケア推進課 高齢障害支援課(あんしんケアセンター支援担当職員)	
開催頻度(回数)	各区2回(花見川区・稲毛区・緑区)	
対象とする利用者	要支援1・2の居宅サービス利用者で総合事業に移行するケースのプランを検証	
出席者	行政(保険者)	地域包括ケア推進課 高齢障害支援課あんしんケアセンター支援担当職員
	事例提供者	あんしんケアセンター、サービス事業提供者
	助言者	医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、保健師、栄養士、歯科衛生士、主任ケアマネジャー等